

第 1 章

介護職員の技能等に係る評価のあり方 に関する調査研究事業の実施概要

1 事業の背景・目的

(1) 事業の目的

我が国では、国内の青年技能者（原則23歳以下）を対象に、技能競技を通じ、青年技能者に努力目標を与えるとともに、技能に身近に触れる機会を提供するなど、広く国民一般に対して技能（知識・技術）の重要性及び必要性をアピールし、技能尊重機運の醸成に資することを目的として、厚生労働省及び中央職業能力開発協会が主催者となり、技能五輪全国大会が開催されている。現在、当該大会に介護職種は含まれていないが、既に一部の民間団体等においては、介護職員の介護技術の向上や地域の介護への関心を深める観点等から、介護技術に関する競技大会が開催されている。

今後、介護サービスの需要が更に高まることが見込まれ、介護従事者の確保が喫緊の課題となる中であって、こうした技能競技の目的はもとより、介護従事者個人の技能の専門性が公平かつ適正に評価され、目標を持ちながら、やりがいを持って働き続けることができる環境を整え、次代を担う介護人材を育成していくことも極めて重要である。

このため、本事業では、技能五輪全国大会に介護職種の競技を追加することを想定して、技能五輪全国大会の他職種の実施状況、民間における先行事例の実態も踏まえ、対象とするサービスや職種、評価のあり方、採点基準や競技の実施方法なども見据えて、関係団体や専門家等の意見を踏まえて、介護の技能（知識・技術）の捉え方、競技課題の内容と採点方式、競技実施にあたっての環境設定、参加資格、参加者の選抜方法、採点者の要件等を設定するにあたっての課題や方向性等について検討する。

(2) 検討委員会における検討事項

介護事業者・施設の業界団体、職能団体、学識経験者、その他有識者等から構成する委員会を設置し、技能五輪全国大会に介護職種を追加することを想定した場合の検討を行った。（委員会：2回開催）

【検討委員会】（順不同、◎：委員長）

◎小山 秀夫	兵庫県立大学社会科学研究科 特任教授
内藤 佳津雄	日本大学文理学部 心理学科 教授
筒井 孝子	兵庫県立大学社会科学研究科 教授
原口 恭彦	東京経済大学経営学部 教授
山田 淳子	公益社団法人 全国老人福祉施設協議会 副会長
平川 博之	公益社団法人 全国老人保健施設協会 副会長
柿本 貴之	社会福祉法人 全国社会福祉協議会全国社会福祉法人経営者協議会
廣江 研	高齢者住まい事業者団体連合会 理事
山際 淳	民間介護事業推進委員会 代表委員
及川 ゆりこ	公益社団法人 日本介護福祉士会 会長

【オブザーバー】

厚生労働省老健局認知症施策・地域介護推進課

厚生労働省人材開発統括官参事官（能力評価担当）技能五輪国際大会推進室

中央職業能力開発協会

【業務支援】

株式会社 社会保険研究所

株式会社 日本ヘルスケアテクノ

【事務局】

一般社団法人 シルバーサービス振興会

2 事業内容

（１）技能競技大会の開催方法、評価指標、評価方法に関する調査分析

- 厚生労働省及び中央職業能力開発協会の主催にて開催されている「技能五輪全国大会」における他職種の技能競技手法・選拔手法、評価指標、評価手法等の調査・分析
〔調査手法〕 技能五輪全国大会開催要項資料の収集、調査、分析、令和５年度会場調査・分析、ヒアリング、運営団体ヒアリング等
- 技能五輪国際大会 Health and Social Care分野の技能競技手法・選拔手法、評価指標、評価手法等の調査・分析
〔調査手法〕 技能五輪国際大会資料収集、調査・分析等
- 民間団体等で開催されている介護技術に関する競技大会における開催方法及び技能競技手法・選拔手法、評価指標、評価手法等の調査・分析
〔調査手法〕 先行競技大会資料の収集、調査・分析、先行競技大会会場調査、ヒアリング、運営団体ヒアリング等

【ヒアリング調査】

介護職員の技能等に係る評価のあり方に関するヒアリング調査

【実施方法】 面談、ないしオンライン会議

	調査対象・内容
技能五輪全国大会調査	技能五輪全国大会会場調査（第61回大会）、関係者ヒアリング 技能五輪全国大会 サービス職種部門（理容、美容、レストランサービス） 競技運営関係者 主なヒアリング事項： 開催状況、競技実施方法、審査方法、評価基準等について
民間団体等で取り組まれている介護技術に関する競技大会調査	オールジャパンケアコンテスト大会会場調査（第13回大会）、大会主催者、 競技運営関係者 青森県介護技術コンテスト 大会主催者 静岡県介護技術コンテスト 大会主催者 石川県介護技能グランプリ 大会主催者 長野県介護技術コンテスト 大会主催者 他 主なヒアリング事項： 対象サービス、職種、参加資格、参加者の選抜方法、競技方法、競技課題の 内容と採点方式、競技実施にあたっての環境設定、審査方法、審査員要件 等

（２）介護技能に関する評価指標、評価手法等に関する検証

- 調査手法：既存の介護技能の評価指標、評価手法、及び（１）で収集した評価指標・評価手法の比較分析
- 技能五輪全国大会への介護職種の競技追加にあたっての検討
 - 評価対象（課題）の設定／評価手法（被評価者・評価者・利用者の関係性に着目する）／評価指標（基準）／評価手法の妥当性、中立性、公平性、均質性等の確保のために講じている措置／評価（採点）に携わる者の資質や要件（中立性、公平性、均質性等含む）／評価（採点）に携わる者の養成方法 等

3 技能五輪全国大会とは

（１）技能五輪全国大会^{▶1}とは

技能五輪全国大会は、原則23歳以下の青年技能者がその技能レベルの日本一を競うことで、若年層の技能の向上を図るとともに、広く国民にもものづくり分野等の技能の重要性・必要性をアピールすることを目的に、昭和38年から毎年開催されており、幅広い職種を対象とする、唯一の全国レベルの技能競技大会である。

▶ 1 中央職業能力開発協会（JAVADA） URL: <https://www.javada.or.jp/jigyoin/gino/zenkoku/>
URL: <https://worldskills.jp/nationalskills/>

原則として、国際大会の前年に開催される大会は、翌年に開催される技能五輪国際大会＜唯一の世界レベルの技能競技大会（隔年開催）＞の選手選考を兼ねている。

令和5年度には第61回大会が開催されたところである。

◎技能五輪全国大会と国際大会 開催実績と今後の予定

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
技能五輪全国大会	沖縄県 選手数 1,292人	愛知県 選手数 1,239人	愛知県 選手数 944人	東京都 選手数 1,028人	中央 (千葉県など) 選手数 1,014人	中央 (愛知県など) 選手数 1,010人	愛知県	愛知県	中央 (愛知県など)
技能五輪国際大会		ロシア (カザン)			15か国 分散開催		フランス (リヨン)		中国 (上海)

技能五輪全国大会の目的としては、青年技能者の技能レベル日本一を競う競技大会であること、次代を担う青年技能者に努力目標を与えること、技能の重要性、必要性をアピールし、技能尊重機運の醸成を図ること、また大会開催地域の若年者に優れた技能を身近に触れる機会の提供などがあげられる。

（２）技能五輪全国大会の概要

技能五輪全国大会の概要は次のとおりである。

●主催：厚生労働省及び中央職業能力開発協会（JAVADA）

●開催実績

1963年より毎年開催。令和5年度は、第61回大会（令和5年11月17日～21日）として、愛知県国際展示場他にて開催された。

●競技職種（全42種目）

[01] 機械組立て	[02] プラスチック金型	[03] 精密機器組立て	[04] メカトロニクス
[05] 機械製図	[06] 旋盤	[07] フライス盤	[08] 構造物鉄工
[09] 電気溶接	[10] 試作モデル製作	[11] タイル張り	[12] 自動車板金
[13] 曲げ板金	[14] 配管	[15] 電子機器組立て	[16] 電工
[17] 工場電気設備	[19] 石工	[19] 左官	[20] 家具
[21] 建具	[22] 建築大工	[23] 貴金属装身具	[24] フラワー装飾
[25] 美容	[26] 理容	[27] 洋裁	[28] 洋菓子製造
[29] 自動車工	[30] 西洋料理	[31] 造園	[32] 和裁
[33] 日本料理	[34] レストランサービス	[35] 車体塗装	[36] 冷凍空調技術
[37] ITネットワークシステム管理	[38] 情報ネットワーク施工		
[39] ウェブデザイン	[40] とび	[41] 時計修理	[42] 移動式ロボット

※全国大会のみの職種：和裁、日本料理、とび → 日本独自に継承すべき技能職種として取り入れられている。



技能五輪全国大会 第62回大会の予定

- 日 程 : 令和 6 年(2024)年 11 月 22 日(金)~25日(月)
- 競技会場 : 愛知県国際展示場〔Aichi Sky Expo 〕 など 13 会場
- 参加者数 : 1,000 名(見込み)
- 競技職種 : 42職種

●参加資格

- 開催年に23歳以下の者。
- 原則として、次に掲げる（ア）または（イ）のいずれかに該当する者であって、都道府県職業能力開発協会（都道府県協会）会長または関係協力団体等から中央職業能力開発協会会長に推薦された者で全国大会に出場するに相応しい技能を有していると認められる者であること。
 - （ア）都道府県ごとに実施される全国大会都道府県予選会において、優秀な成績を収めた者であること。
 - （イ）予選会で競技が実施されない競技職種にあっては、当該職種の近年の競技課題について、指定された時間内に完成することができる技能を有し、全国大会への参加に相応しいと認められる者であること。
- 過去の技能五輪国際大会で同一職種の競技に参加したことのない者であること。
- 職種により、参加資格要件を設けている職種あり。
 - 「美容」:「美容師免許」取得者又は美容師養成施設の美容学科に在籍もしくは卒業している者
 - 「理容」:「理容師免許」取得者又は理容師養成施設の理容学科に在籍もしくは卒業している者

●参加選手等

- 競技必要人数 : 原則として 7 人（競技職種によっては 2 名 1 組による 7 組）以上
- 上限設定あり（競技用設備、競技会場等を勘案）
 - ※第61回大会参加者 : 1,010人
- 参加形式 : 都道府県単位で選手団を編成（都道府県職業能力開発協会）

●競技課題等

- 競技時間 : 職種により異なる。(例/日本料理 3時間50分、建築大工 12時間 等)
- 競技日数 : 1日～2日(職種により異なる。)
- 課題数 : 職種により異なる。
- 課題レベル : 技能検定1級相当と位置づけ。(23歳以下の2級技能者の優秀技能者相当による競技を想定)。競技別に、技能五輪国際大会基準を意識したレベル設定がなされている。
- 競技課題の競技前公開 : 職種により異なる。(当日まで非公開の職種あり)
 - 競技課題事前公開職種においても、当日に課題内容の一部変更等により、競技者の対応力を評価する等の運用あり。

●優秀者の表彰

- 成績優秀な者及び選手団に対して、表彰(金賞、銀賞、銅賞及び敢闘賞等)。

●技能五輪全国大会の運営体制

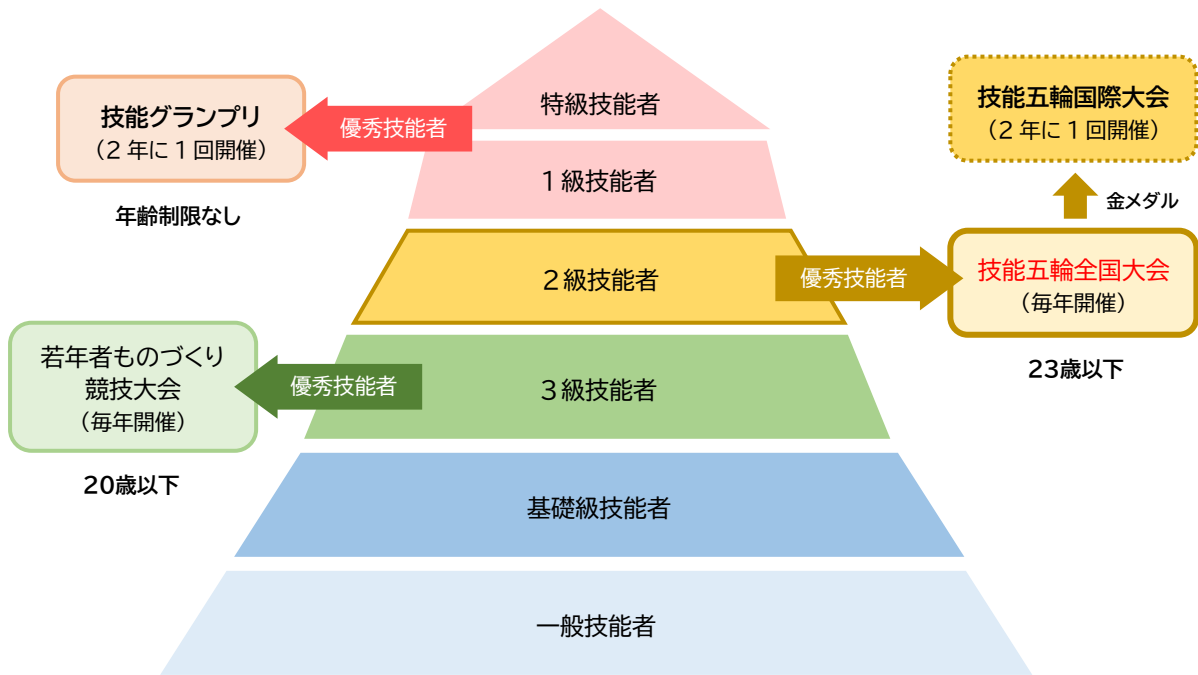
技能五輪全国大会の運営主体、技能競技会の相関図(技能五輪全国大会、若年者ものづくり競技大会、技能グランプリ、技能五輪国際大会)は次のとおりである。

【表】運営委員会、技術委員会、競技委員会

		業 務	備考) 第61回大会
運営委員会	・競技関係団体の役員 ・競技会場の管理者 ・厚生労働省 ・受託者関係者 ・共催都道府県 ・共催市区町村 ・共催都道府県協会	競技会場に係る ・運営要員の配置計画 ・競技用設備確保 ・競技用材料調達 ・来訪者対応 ・事故発生時対応 ・開催総務的事項	大会会長(1) 副会長(3) 技術委員長(1) 技術副委員長(3) 運営委員長(1) 運営副委員長(2) 運営委員(37)
技術委員会	・学識経験者 ・厚生労働省 ・受託者関係者	・競技課題作成指導 ・技術的助言及び指導 ・競技に関する技術的事項 ・競技作品の採点結果及び競技実施報告書の審査 ・被表彰者決定 等	
競技委員会 (競技種ごとに設置)	・学識経験者 ・競技関係者	・競技課題及び実施要領(採点基準を含む)の作成及び管理 ・競技準備 ・競技実施の指揮及び進行 ・競技作品の採点 等	競技委員(266) 競技補佐員

運営体制のうち、競技種目ごとに設置される「競技委員会」において、競技課題及び実施要領(採点基準を含む)の作成及び管理、競技準備、競技実施の指揮及び進行、競技作品の採点等が行われる。

【図表】各種技能競技大会の関連図



出典：厚生労働省ホームページ掲載図より作成

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/jinzaikaihatsu/ginoukyougi/index.html

(3) 技能五輪国際大会との関係と近年の動向

技能五輪全国大会は、翌年度に開催される技能五輪世界大会（WSI）の選考を兼ねる位置づけである。但し、職種によっては、全国大会のみとするものもあり（例：和裁、日本料理、とび）、日本独自に継承すべき技能職種として大会種目に取り入れられている。

近年、技能五輪国際大会（WSI）との関係においては、国際大会の評価基準に照らした全国大会の各競技委員会への検討が促されており、国際大会と全国大会との競技課題の整合化を図り、全国大会の延長線上に国際大会が位置付けられるべきとの推奨がなされている。このため、具体的には国際大会基準を照準とした改定の推奨として、測定基準の設定、採点基準の推奨、非公開課題への対応など、各職種において、国際大会で求められるスキルを意識した、全国大会課題設定や評価基準の見直しがされている。

競技大会の評価のあり方については、概念整理がなされており、採点基準の方針として、技能の重要性の裏付け、客観基準の推奨、創造性・問題解決力、コミュニケーション能力の評価、実務実態に基づいた競技であるべき等の方針が示されている。



写真： <https://worldskills.jp/worldskills/> より

【図表】技能五輪国際大会における評価の原則

原 則	定 義
Standard 基準	到達しているかどうかを評価（測定）できる設定された明確なものがあること。
Authenticity 信憑性	評価結果が、間違いなく正しい人によってなされたものである証拠が存在すること。
Currency 流通性	到達基準は最新であり、基準に関連していること。
Validity 有効性	評価法は、基準が満たされていることを明確に示す証拠となること。 競技委員は、評価と採点において完全性と非常に高い専門知識の両方を持っている必要がある。 データと監査によってサポートされる監視と監督は、継続的な品質改善を支える必要がある。
Fairness 公平性	全ての選手に基準を達成するための平等な機会と条件を与えること。
Consistency 一貫性	基準は、すべての評価状況において全ての選手に一貫して適用されること。
Manageability 管理性	評価管理は、リソースや選手に過度の負担をかけることなく実施できること。

出典：技能五輪国際大会エキスパート・アクセスプログラム資料

第61回技能五輪全国大会 運営委員・技術委員・競技委員合同委員会 資料2「競技課題の整合化と評価の適正化」より

【図表】職種発展と追加に必要なガイドライン

技能五輪全国大会の運営	技能五輪国際大会評価基準との関係において
職種発展と追加に必要なガイドライン 技能五輪国際大会 Competition Rule Ver.5より抜粋	
重要性を示す 1. 代表的で重要な技能であることの裏付け 2. 測定基準が必要（主観⇒客観基準へ）	技能五輪国際大会の評価基準と照らし、各競技委員会への検討（実施）を促している ・ 競技においてどのように努力すればよいのか、基準を示す（採点基準の公開） ・ 競技の結果がどうだったのかを示す（採点結果の詳細のフィードバック） ・ わかりやすい競技とする ・ 若者が興味を示す職種とする など…
発展させる 1. ICT技能と知識社会に必要な革新 2. 作業に必要な社交能力とコミュニケーション能力（創造性、問題解決、チームコミュニケーション等） 3. 伝統や文化遺産をPRする技能	
改善する 1. 旧態以前のものから現代的職種へ 2. 単独的な職種から複合的な職種へ 3. 訓練システムに基づく競技から職業生活に基づいた競技へ	

第61回技能五輪全国大会 運営委員・技術委員・競技委員合同委員会
資料2「競技課題の整合化と評価の適正化」より抜粋